

# 包装技術協会と包装管理士会

公益社団法人 日本包装技術協会  
専務理事 古屋 一

包装管理士会の定時総会にお招きいただきましたことを心からお礼申し上げます。本日は、ご挨拶に代え、日本包装技術協会の本年度の事業についてご報告およびご案内をしてみたいと思います。

ご存じの通り、日本包装技術協会は昨年創立50周年を迎え、記念式典を開催しました。そして本年は、関西支部、中部支部及び西日本支部が創設50周年を迎え、関西及び中部支部では記念式典を開催しました。これら式典の終了直後に第49期の包装管理士講座が始まりました。今回は417名という講座が始まって以来の最多人数が受講生として参加しています。参加人数に限りがあり、残念ながら今回の講座には参加できず、次年度までお待ちいただくこととなった方もいらっしゃると思います。受講者数は一昨年位から非常に増えてきました。受講者数や内容の高度化等も含めて運営そのものにつきまして、研修員の方々や先輩であります皆様方のご意見やお知恵を拝借しながら、今後の運営を考慮していきたいと思っております。

この包装管理士講座の始まった次の週に包装アカデミーが始まりました。輸送包装、食品包装、包装材料及び医薬品包装の4コースに受講者は、58名となっています。これも史上最多の人数です。こちらを修了された方々には包装専士の称号を授与していますが、昨年までに1,016名となっています。ちなみに包装管理士は、48期を通して11,824名です。

☆ 本年の、日本パッケージコンテストは、つい3日前に開催されました。今回も300点以上の出品があり、13点のジャパンスター賞が決定しました。その他の入賞パッケージを含めて東京パックスの会場で披露する予定です。

そして、今年最大の行事は東京パックスです。10月7日から10日までの4日間、東京ビッグサイトで行われますが、前回に比べ、小間数が大幅に増えております。同時に多種多様なセミナー等も併催事業として計画しており、こうしたすべてを7月位にはパンフレットをお届けするよう進めています。本日お集まりの皆様方にはぜひご来場いただきたいと思っております。

本年最後の大きな事業は全日本包装技術研究大会で、今回は札幌で行われます。これは日本包装技術協会の創立時から実施している事業で、今回は第52回目の開催となります。現在、発表者の募集を行っておりますので、ぜひ、お仲間の皆様方にお声をかけていただくなど、ご支援を頂戴できれば幸いです。

以上が今年の当会の主要事業の流れです。

いろいろご案内しましたが、とにかく本年は東京パックスの開催年でございます。すでに海外からも多数関心が寄せられています。ぜひここでも管理士会の皆様方の大いなるパフォーマンスを期待したいと存じます。

最後になりましたが、包装管理士会が今後に向けて持てる力を十分に発揮され、井上会長のもとに会員一丸となって邁進されますことを期待しますと共に、私共協会に対して今後も変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げ私の挨拶といたします。

(第48回定時総会来賓挨拶より 文責：編集部)



PACKAGING INFORMATION  
包装技術者の連携と協力をめざす

日本包装管理士会 会報  
No.117

## 《INDEX》

定時総会	2
支部だより	6

ipp  
news

ipp news  
2014年8月25日発行  
編集人／荒井拓哉  
発行／日本包装管理士会  
東京都中央区築地4-1-1  
TEL 03-3543-9250

## 総会を終えて

日本包装管理士会 会長・井上伸也（5期）

会員の皆様、こんにちは。皆様健やかにご活躍のことと推察いたしております。第48回定時総会を6月20日に開催いたしましたところ、（公社）日本包装技術協会専務理事 古屋一様をはじめ、友好団体の代表の方々にご臨席いただいたなか、出席者の皆様から

活発な討議をいただき、議題については提案のとおりご承認をいただきました。ありがとうございました。

今期も承認していただいた内容に従って会の運営を行わせていただきます。具体的な内容は別項の総会報告をお読みいただきたいのですが、総会冒頭のご挨拶で申し上げたことや活動方針の中から、特徴的なことについて紹介させていただきます。

一つには、総会議案書の総会前配布です。総会前配布については二つの方法をとりました。第一に、本年度はじめてIPPホームページに総会議案書をPDF形式で事前掲載しました。第二に、昨年度から実施している、会員から登録されたe-mailアドレスへの送信を今年度も実施いたしました。この二つの方法による事前配布により必要事項の事前把握によるご了解と総会質疑の活発化から、順調な総会運営を行うことができました。ホームページとなると私もそのひとりなのですが、毎日あまり変わっていないとだんだん見なくなってしまう、新しいことが掲載されていると確認してみようということになります。このへんは会の活動に興味を持って見ていただいている方向けの広報活動です。IPPのホームページは現在すべてを非会員にも公開しています。パスワードを入れて閲覧する会員専用ページの検討もされたのですが、別に内緒にする内容もないということで何もかも公開しております。全公開に対しては賛否両論、ご意見があると存じますのでご意見を事務局にお寄せいただきましたら、会の活動に反映していけると考えています。また、e-mailアドレス未登録の会員の方はぜひご登録いただくことをお願いいたします。



三つには、IPPの母体ともいえるJPIをはじめ、日本包装専士会、技術士包装物流会、日本包装コンサルタント協会との協同です。IPPを合わせた4団体として東京パック2014で共同展示・運営を行うための作業を進行させています。IPPとしての主体性を持って積極的に寄与していきたいと考えております。来場の折にはぜひ共同展示コーナー・IPP展示コーナーへお立ち寄りください。

最後に、会員増強のための活動についてご報告します。会員勧誘のための一番は実際の活動で、支部での日常活動を活発に行っていただくことです。活動に参加していただいた会員からの口コミ勧誘が一番効果的な方法だと思います。次の手段としてIPPとしての広報があります。ツールとして今はホームページがあり、もうひとつJPIの機関誌「包装技術」を利用した広報活動です。現在は協会からページを無償で提供していただいております。「IPPコミュニケーション」のページとし利用いただいております。「包装技術」誌に掲載させていただいていますと会員さんや企業さんの担当の方など興味をもって見ていただいている方から、包装研究会等に参加したいという方が少しずつですが増えております。管理士講座修了後、包装管理士会の活動に興味があるような、無いような微妙な方を会にお誘いすることです。ただ、ホームページの掲載活動や「IPPコミュニケーション」への掲載記事もすべての基礎は日常の活動です。各支部での日常活動が活発に行われていることに感謝するとともに、会員増強に向け、会員の皆様の協力をお願いし、総会を終えてのご報告といたします。

## 第48回日本包装管理士会定時総会開催される

2014年6月20日（金）、第48回日本包装管理士会定時総会が、(株)文昌堂10F貸会議室において開催されました。

総会は、29名の出席者と425名の委任者によって成立し、公益社団法人日本包装技術協会専務理事 古屋一氏、日本包装コンサルタント協会会長 鹿毛 剛氏、日本包装専士会事務局長 安原明世氏、技術士包装物流会副会長 住本充弘氏を来賓にお迎えして開催されました。

審議に先立ち、井上伸也会長の挨拶、来賓を代表して日本包装技術協会 古屋一専務理事の祝辞をいただきました。

井上会長は「我々も50周年という節目を迎えようとしています。こういう団体は10年、20年でも難しいところを50年もってきたということで、ここまで形を残して下さった先輩方に感謝しております。全員で感謝の機会を作りたいと考えています。」と挨拶しました。続いて来賓代表の日本包装技術協会 古屋専務理事からは「第49期包装管理士講座は417名の受講生が参加しました。東京では193名で、これは歴史上最高の人数だとできております。また、今年は「TOKYO PACK」ですので、ぜひ包装管理士チームの皆様方のパフォーマンスをよろしくお願ひしたいと思います。」とのお言葉をいただきました。

### 議案の審議

議案の審議は、例年の4件に50周年記念事業の提案を加え、5件全てが承認されました。

#### 第1号議案 2013年度事業経過報告及び収支決算報告承認の件

(提案者：事務局長（荒井拓哉・会員番号12006）)

冒頭で、各支部の4月30日現在の会員動静を報告。北海道から西日本まで、合計781名、全体としては残念ながら減っているが東北支部と西日本支部は会員数が増えている。これからは企業単位での入会者に頼るだけではなく、個人の意識に訴えていかなければならないと述べた。

#### ○2013年度の各事業の活動報告

財務：年会費の収入は予算を若干上回る収入があったが、会員数が減ることを想定して、前年度の90%

としているので、前年度より増えているということではないと説明した。

情報：事務局のパソコン2台を、Windows 7 OSのパソコンに更新し、プリンターも新規に購入した。

広報：見学会、研究会の案内は、より具体的に内容を説明する案内を実施した。JPI発行の「包装技術」に、セミナー等のPRを掲載した。

国際：関東支部主催の海外視察は毎年、アジア・オセアニアの視察を行っている。

総務：今年度は長野地域との交流を行ったが、海外だけではなく、国内の地域との交流も重視して進めている。

「PACK SHOW 2013」では、JPI、包装関連4団体協働で「包装の役割・機能体験コーナー」を企画・展示し、注目を集めた。

10大ニュースは全国会員から88件の応募があり、本部理事会で選択合意し、「包装技術」1月号に掲載した。

事務局：新包装管理士の入会は28名に止まっている。

今後最近の資格取得者に入会の勧めを積極的に進める。また、ホームページに入会フォームを設けた。

2013年度収支決算報告につき、引き続き事務局長から提案があった。



役員、議長、司会者

#### 第2号議案 2013年度業務監査報告及び会計監査報告承認の件

業務監査報告（提案者：業務監事・藤井健治郎氏（会員番号 10111）)

5月20日、業務監査、会計監査を行った。各業務担



当より提出されていた報告書を詳細に確認しました結果、下記の通り報告します。

各部門はそれぞれの業務において、財務状況が大変厳しい中、2013年度の計画をほぼ計画通りに実行されており、全部門一致して活動したことを評価されるものと認めます。

会計監査報告（提案者：会計監事・塚本富陸氏（会員番号 13093）

5月20日、会計監査を実施しました。2013年度の会計帳簿、収支決算報告書及び貸借対照表を監査したところ、公正妥当な会計習慣に従って作成されたことを確認しましたのでここに報告します。



議案を提案する井上会長

## 第1号議案、第2号議案に対する質疑応答

以下の質疑応答があった（ポイントのみ記載）。

（発言者：小林弘侑氏（会員番号 17089））：今まで2013年度の報告を聞きまして、事務局業務の進行が充実していると実感しました。研究会等の連絡業務も充実していると感じます。ホームページについても更新がされています。以前は2～3ヶ月に1度という感じでしたが、毎月のように更新されています。ホームページに載っていた内容で、理事の立候補を受け付けますというのが有りましたが、これはホームページをよく見ている人でないとわかりません。こういうことは基本的なことですから会則で定義して載せておくことによってホームページを見て組織として会員が増えていくという感じがします。会員数の減少について2013年は私の想定より少し良かったが、ただ一過性のものかもしれないので会員の増強は必要だと思います。本部基金の用途使途をもう一度再確認することが必要で、この会が何か不幸なことがあって解散になり、その基金が残ってしまった場合にどう処理するのかという問題があります。残ったお金は今いる会員が払ったお金ではないのですから、納得いくような使い方をしていくことが大事ではないかと思います。

質疑応答終了後、拍手多数によって、1号議案、2

号議案が承認された。

## 第3号議案 2014年度事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件

（提案者：会長・井上伸也氏）

<事業計画説明>

重点課題6項目は基本的には変わっていません。一番目の「会員の自己啓発による実力アップを支援する」は自分の中の包装に対する知識、あるいは業界の中での立場をレベルアップするための自己啓発に取り組みます。目の前の重点事項として創立50周年記念の件を実際の活動に移行します。一部は進んでおり、記念キャラクターはすでに公募を締切っております。今年は50周年への段取りを確実なものにしたいということから重点課題とさせていただきます。

財政：財務は活動の基盤となる。今までは会費収入予算に対してプラスに終わったことがほとんどない。新管理士だけではなく5～6年経って自分の立場も変わってきた人には是非みなさんから声を掛けていただきたいと考えている。

情報：ホームページのサポートについては、会員の皆様が会の運営をより理解しやすいように改善していく。

広報：国際：本部の活動は低調で申し訳ないが、関西支部、関東支部などが海外視察団を派遣している。本部としてお手伝いした方がよいところは今まで通りやっている。海外から来られた団体との交流も本部としては低調になっているが、荒牧さんに担当理事になっていただいて本部としてどういう国際活動ができるかということを考えていただいている。

総務：事務局：スムーズに流れていると考えている。総務で50周年が上がっているが、この後予算を含めて具体的なご提案をさせていただく。

今日が総会で、5月から活動をスタートしている。今年は2カ月に1回、5回理事会を入れている。関東支部の理事に合同で参加していただく場合がある。

<2014年度予算（案）>

総額で6,433,614円で前年度の713万円に比べて金額が少し落ちている。現行会員数の0.9、10%減らしたところで予算を立てており、各支部への配分もその分減っているが、各支部になるべく早めに予算執行している。100%会費が入れば、年度末に支部への支給も本来修正しなければならないが、昨年度はパソコンの入れ

替えの出費を何とか基金を使わずに処理したいということから、そちらの方に入れさせていただいた。中部支部については、あくまで年度末に清算ということなので年度末に変わる可能性はあるが、中部支部がきっちりと計画を立てた、その通り記入している。支部活動費が少し減ったということと、それに伴い関東支部の分担金も少し減らした。その代わりに支出の東京パックに従来100,000円かけていたが、関東支部にお願いして10,000円にさせていただいた。支出は、支部活動費は基本的に会費収入の70%をそのまま支出としている。ippニュースは従来通りハードコピーで年2回発行していきたい。国際交流は先程ご説明したように減らし、国際交流調査費は東京パックにお見えの団体との交流会のお茶代等にに使わせていただいきたいと思っている。大きくは基本的には変更は無い予定だが、情報システム更新積立については、改めて25,000円ずつ積み立てていく。予備費は42,000円ということで、何かあったら足りないが、6,433,614円の予算を提案させていただきたい。

**第4号議案 50周年記念事業に関する件 審議の件**

(提案者：会長・井上伸也氏)：山田副会長を委員長として委員会を立ち上げている。委員会は、(1) 記念誌発行委員会 委員長：佐々木さん (2) キャラクター作成委員会 委員長：古平さん (3) 記念セミナー委員会 委員長：道明さん (4) 記念パーティ委員会 委員長：大野さんで、委員は本部理事さんになっていただいている。その他に各支部長さんにご意見をいただいて進めさせていただいている。昨年の総会で一応のご提案をし、費用を含めて本日正式にご提案させていただく。

一番進んでいるのはキャラクター委員会で、キャラクターの募集も終わり約30点の応募があった。

記念誌は、A4・100ページ位のものにしようと考え、核になるものとして過去の記録としても残っている10大ニュースの調査を進め、選定を始めて以来の全ての年度の10大ニュースが集まった。

記念パーティについては、50周年記念事業は第50回定時総会に合わせて同日にやろうという前提で動いている。記念セミナーの講師に良い方がいらっしゃったらご提案をお願いしたい。

予算は293万円、約300万円で、記念誌が220万円で残りの金額がその他の行事に使われる予算です。

予備費が10万円で足りるかという問題はあるが、293万円の基金の取り崩しを現時点でお認めいただきたいと考えている。

拍手多数で、第4号議案が承認された。

**第5号議案 役員候補 (案) 審議の件**

(提案者：会長・井上伸也氏)：今年度は正式に改選の年で、長い間副会長でご苦労いただいた松本さんが多忙のため副会長の役を外れ、大川さんが会社のご都合で外れ、代わりに弟さんに関東支部と一緒に本部の理事をお願いした。新任理事は大伊豆の専務取締役・大川和康さんを承認いただきたい。

第5号議案が拍手多数で承認され、井上会長から1期2年間よろしくお願ひしますと挨拶があった後に、新任理事の大川氏から「全会員の創意でさらにIPPを発展させていきたい」と挨拶があった。

第48回定時総会は、笹木関東支部理事の閉会宣言により無事、幕を閉じ、出席者による交流会となりました。



挨拶をされる日本包装コンサルタント協会会長 鹿毛剛氏



和気藹々の交流会

なお、本部定時総会に先立ち、第42回日本包装管理士会関東支部定時総会が同日、同会場で開催されました。19名の出席者と141名の委任者によって成立し、4件の議案は全て承認されました。新任理事に大川和康氏が提案され承認されました。

**2014年度 日本包装管理士会 支部長**

北海道支部	酒井 幸彦 (36期)
東北支部	鈴木 雅彦 (23期)
関東支部	山田 孝志 (35期)
中部支部	岡部 智 (27期)
関西支部	桃川 公一 (23期)
西日本支部	宮崎 義一 (21期)

## 関西支部だより ●●●

関西支部 細田基則（13期）

関西支部の活動テーマは「広く会員の皆さまの交流の場を提供する」です。ミニセミナーの開催やW会（女性だけで構成された包装等を考える会）との合同研究会、及び見学会&セミナーを継続して行っています。ミニセミナーは6年目に入り第20回を終えました。W会との合同研究会も5年目に入りました。これらはいずれも非会員の方々にも門戸を開いて交流の場を拡げています。

本年度も5月30日に開催した関西支部総会にて継続して事業を展開していくことで承認を得ていますので、会員の皆さまにはこぞって参加して頂きたいと思っています。

### ◆ミニセミナーの開催

#### ◇第19回 2月25日

「印刷物の価値を高める印刷インキ」

講師：東洋インキ(株) 下川英昭氏

「医薬品包装におけるユニバーサルデザイン」

講師：アストラゼネカ(株) 高池敏男氏



第19回ミニセミ下川講師



第19回ミニセミ高池講師

#### ◇第20回 3月25日

「包装タイムス記者がみた2014年包装業界注目企業、注目分野」

講師：日報ビジネス(株) 渡辺広宣氏

「シュリンク包装の世界需要と日本の需要の違い」

講師：(株)ファストプラス 山本則之氏



第20回渡辺講師



第20回会場風景

### ◆2013年度/2014年度 関西支部 総会

2014年5月30日 於：中之島センタービル28階  
(包装技術協会関西支部)



14年定時総会



◆第5回W会との合同研究会 7月15日  
 「印刷物に付加価値をもたらす応用技術」  
 講師：太成二葉産業(株) 荻野勝久氏



W会集合写真

「楽しい発想から生まれるクリロン化成の新製品」  
 講師：クリロン化成(株) 谷川晃史氏



W会会議風景

## 東北支部だより

東北支部 事務局長 斉藤 昇 (13期)

平成26年6月12日(木) 支部見学会・支部総会・懇親会を開催しました。当日は雨風の悪天候で交通渋滞や列車の遅れで集合時間に何人集まるか心配しましたが全員時間通りに集まりホットしました。



航空大学での説明

見学先は2014年には民営化される仙台空港で、輸出入貨物の保税・荷扱い状態や管制業務や航空大学の教育現場を見学しました。民営化で、仙台エアーカー

ゴターミナルは貨物取扱量を5万トンを目指しています。しかし残念ながら震災以降貨物取り扱量は約6000トンまで減少し、貨物路線は現在運航されていないのが現状です。今後仙台空港が「東北の物流ハブ拠点」

「東北広域観光の拠点」「東北基幹産業のビジネス交流拠点」となる事を願っております。そんな空港施設の現状を見学する事が出来ました。大幅に取り扱量が減少している



空港特殊車両説明(滑走路内)

貨物倉庫を、目の当りにした時は大変寂しい思いを見学者一同実感いたしました。東北よ、元気なれと。そして金属探知機で各人チェックして空港滑走路へ。そこで活躍している各種特殊車両を間近に見て説明を受けました。しかしこの説明の時台風なみの暴風雨でした。全員びしょり、航空学校では航空管制教育の現場も見学し約2時間の見学を終了しました。空港2階に展示しているセスナ機の前で集合写真を撮り、見学会を終了いたしました。

総会開催の場所へ移動し第29回支部総会を開催しました。1号議案・2号議案等 議案審議承認後、IPP50周年行事の説明を行い、今後の支部活動や会の在り方などフリートークを行い、懇親会に移り会員同士の親睦を深めました。



見学後集合写真



懇親会集合写真

### 当面の予定

#### 研究会開催

期日：9月8日(月) 13:30～16:30

場所：仙台商工会議所会館 1F会議室

#### テーマと講師

第一部「NO-FOODLOSSPROJECTの推進について」

～食べ物に、もったいないを、もう一度～  
 講師 東北農政局 容器包装リサイクル係

第二部「食品ロスの削減と食品包装の重要性」

講師 一般社団法人日本食品包装協会  
 理事長 石谷孝佑氏

JPI・IPP共催 会員以外の参加OKです

## 北海道支部だより ●●●

北海道支部長 酒井幸彦（36期）

IPP会員の皆様、盛夏の候いかがお過ごしですか？。北海道はちょうど良い季節を迎え札幌大通り公園のピアガーデンも7月18日より始まり、仕事帰りのサラリーマンがジョッキを傾けている毎日です。

又、観光客の姿も多くみられ、特に札幌大通り公園や小樽運河には多数の外国人の観光客が訪れており、中国語、韓国語、英語等が入り混じって非常に賑やかです。

今年は昨年に比べ天候も良く、さくらんぼ、ブドウ、メロン等の果樹が豊作傾向との事で農産物は概ね順調に推移し秋物の収穫を待つだけです。

それに比べ水産物は海水温の影響もあり、あまり芳しくない状況ですが8月後半から始まるサンマ漁に期待がかかる処です。

北海道経済は3月に消費税増税の影響もあり、包装資材関係は好調でしたが、その後は徐々に反動が表れて非常に厳しい状況が続いており、天候に期待するところが大きいです。1次産品に頼る現状ですがいかなる状況であっても、我々包装に携わる者としては常に「包む」を念頭に活動しなければならないと考えます。

### 【北海道支部総会】

北海道支部の平成25年度通常総会を6月11日札幌す

みれホテルにて開催致しました。

平成25年度決算報告並びに平成26年度事業計画案を説明し承りました。

喫契の課題としては会員の減少があり何とか増員を図りたいとJPI会員各社にお願いしていますが厳しい状況です。

### 【親睦ビール会開催】

7月24日サッポロビール園にてJPI、IPP合同にて親睦会を開催致しました。

当日は20名が参加し、美味しいジンギスカン、ビールを食べ飲みし北海道の暑い夏を満喫すると共に日頃のストレスを大いに発散し、和気藹藹にて終了致しました。



親睦ビール会（サッポロビール園にて）

## 中部支部だより ●●●

中部支部長 岡部 智（27期）

### 包装資材研究例会と第45回定期総会

平成26年6月26日（木）の午後、JPI中部支部との共催事業である「包装資材研究例会」を84名の参加で開催しました。会場は名古屋駅東口に近接したウインクあいち（愛知県産業労働センター）で、「レーザーマーキング法の応用と緩衝材の開発およびレンゴーにおける省資源型ダンボールの開発」をメインテーマに3件の発表がありました。

それぞれの講演タイトルは、ダイナパック株式会社の北村潤一郎氏から「レーザーマーキングシステムによるパッケージデザイン展開」、アイロップ株式会社の大下正人氏から「フリーサイズクッションの開発」およびレンゴー株式会社の熊谷知久氏から「環境を考慮した最近の段ボール包装」でした。またコーディネーターには愛電商事株式会社の前川銃一氏とホーユー株式会社の高見昭寛氏にお願いしました。

例会終了後は同会場で、第45回定期総会を開催しました。第1号議案の平成25年度事業報告並びに収支決

算報告と会計監査報告の承認、続いて、第2号議案の平成26年度事業計画並びに収支予算案の承認、第3号議案では役員の新任および新任案について提案があり、原案通り承認されました。運営委員として新たに、株式会社アイセロの太田康之氏と名港海運株式会社の鳥居晃好氏とに加入していただくことになりました。

引き続き、支部活動への会員各位のご支援とご協力をお願い致します。



中部支部第45回定期総会



## 西日本支部だより ●●●

西日本支部 事務局長 小田博章 (17期)

西日本支部の第37回定例総会も5月23日に終了し、本年度の事業計画及び予算案が決まりました。本年度も、JPI西日本支部と協力して取組んでいきます。特に、昨年から取組を強化しています「会員交流の場を増やす」を目的とした事業展開を進めます。例年、講演会と見学会は年に1回でしたが、昨年は講演会を2回、見学会を4回6社実施し、JPI、IPPの会員だけでなく、倉庫協会・IE協会・物流同友会等の物流団体や、商工会・法人会等の経済団体にも声をかけて、同業異業種間の会員交流に力を入れました。本年度も昨年同様の事業方針でいきたいと思ひます。

さて、今回は本部・支部の関係と役割、会員数についてお話をさせていただきます。JPIは公益社団法人になり、各支部での定例総会がなくなり、昨年からは本部総会の説明会に形を変えられました。西日本支部では、JPIとIPPは常に二人三脚で事業を行っており、JPI・IPP支部総会も同じ日に行ってきたのでIPPの上部組織のJPI支部定例総会がないのは少しさびしい感じがします。IPPも、本部と支部の距離が遠くならないようにと願っています。毎回、本部での理事会の案内をいただいておりますが、ほとんど西日本からは、出席することが出来ません（議事録は毎回お送

りいただいております）のでIPP全体の運営に支部として何も協力出来ていない気がしております。次に、各支部とも頭を抱えておられるのが、会員減少問題と思ひます。西日本支部も最盛期は200名を超える会員数でしたが、今では40名強です。ここまでの会員減少は包装管理士に合格された方が、自動的に包装管理士会に入会されていたシステムが変更されてからだと思ひます。この2点について、真剣に取組む時期に来たと思ひます。

2016年のIPP50周年の節目の年までには、西日本支部として考えをまとめたいと思ひます。本部・各支部の意見もお聞かせくだされば幸いです。



## 関東支部だより ●●●

## IPP写真研究会の行事報告

IPP写真研究会 会長 林 晴夫 (19期)

2月8日はIPP写真研究会創立20周年写真展と写真展10周年記念祝賀会をアサヒビールゲストルームにて開催した。

横殴りの雪の中、26名が参加し、16時から18時すぎまで和やかに過ごせた。お祝いに藤井さん及び来賓挨拶やアトラクションの日本舞踊もあった。大雪で苦心の新年会であったが、心に深く残った。

4月6日は新宿御苑で満開の八重桜を5名が撮影した。その後、情報交換会をにいむら本店にて実施した。

4月26日は高円寺のびっくり大道芸2014の撮影会を開催、16時高円寺駅前の中国雑技芸術団から撮影を開始し、ベリーダンスやチクリーノとか、撮影ポイントが目白押し、ゴールデンズ大駱駝艦は凄かった。その後、中華料理店にて情報交換会をした。

6月1日は横浜山手234号館にて写真展の抽選会が9時からあり、10月9日から14日の写真展が決定した。その後、みなとみらいのピヤホールにて乾杯した。

7月5日は2月の大雪で新年会、不参加の会員のためにアサヒビールのゲストルームに27名参集し16時から19時半まで納涼写真展を開催した。プロ写真家の方を招待し我々の日頃の腕前を優しく評価して頂いた。

8月2日、茨城県古河市の渡良瀬川河畔の古河ゴルフリンクスで花火撮影会を行い7名が参加しました。



納涼写真展で集合

関東支部だより ●●●

関東支部 春季見学会を開催

関東支部 副支部長 古平 篤 (25期)

関東支部の春季見学会が2014年4月17日(木)に開催されました。今回は「ガリガリ君」で有名な赤城乳業㈱の工場見学を行い、23名が参加しました。東北支部からも2名が参加されました。

当日は池袋に12時半に集合し、バスで見学先に向かいました。赤城乳業㈱は埼玉県にある会社で本社・深谷工場と本庄千本さくら「5S」工場の2工場がありますが、今回は平成22年3月13日に稼働した新しい、本庄千本さくら「5S」工場を見学しました。



ガリガリ君がお出迎え

ちなみに赤城乳業の名前は赤城山に由来しているとの事ですが、埼玉県にある会社です。

バスで見学先に到着後、会議室で会社紹介があり、その後2班に分かれて工場見学を行いました。見学コースは見やすい工夫がされており、ガリガリ君・ソーダ味の水色をイメージした配色で、衛生管理は製薬会社レベルの衛生管理システムを構築している、非常に綺麗な工場でした。5Sは、「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」の5つの頭文字をとったそうです。

本庄千本さくら「5S」工場ではガリガリ君をメインに製造しており、アイスクリーム等も製造しています。ガリガリ君は1秒間に11本できるそうで、1981年に誕生した商品で、現在では通常品は60円(税別)で販売されています。見学は90分のコースになっており、最後に試食やお土産を買えるようになっていました。そこで参加者全員で記念撮影を行いました。

工場見学後はバスで再び池袋まで戻り、池袋駅近くの居酒屋で情報交換会を行い、20時に解散となりました。

今年度は10月と来年の1月、4月の見学会を行う予定です。皆様にはその都度ご案内を差し上げますので是非ご参加下さい。



試食も終わり記念撮影

日本包装管理士会創立50周年記念キャラクター

ご応募・ご投票 お礼

日本包装管理士会創立50周年記念事業の一環として、IPPにふさわしいキャラクターを募集し、5月12日に応募を締め切りました。皆様の積極的なご応募により、たくさんの素晴らしいキャラクター案が集まりました。ここに厚くお礼申し上げます。

また、8月1日から8月15日の間、ホームページ上において応募作品の人気投票を行いましたところ、多くの会員の皆様からご投票いただきました。重ねてお礼申し上げます。

今後、皆様からの投票結果を基に、会長・副会長・支部長・本部理事・50周年委員により、厳正な審査を行い、最終案を決定してまいります。どんな素晴らしいIPPのキャラクターが誕生するか、どうぞお楽しみに!

50周年記念キャラクター委員会

## 「第6回 スキルアップセミナー」 を開催

事務局

2014年2月21日、(株)文昌堂貸会議室において「第6回スキルアップセミナー」を開催し、22名が参加しました。

テーマは「具体例で学ぶ商標権・意匠権」で、特許業務法人むつきパートナーズ 弁理士 長坂剛人氏にご登壇いただきました。セミナー内容は、特許法・意匠法・商標法・不正競争防止法・著作権法の5つの法制度のうちから、商標権・意匠権について詳しい解説があり、加えて、権利の活用事例を食品のケース、料理のケース、キャラクターのケースにより、解りやすく解説していただきました。講師が所属するむつきパートナーズ は弁理士が4名所属し、主に特許・実用新案・意匠・商標に関する業務を行っており、商標・意匠の登

録率は9割を超えている法人で、実務的な説明により、法制度から実際の活用までを学ぶことができました。

次回は包装材料に関するセミナーを予定しています。



第6回スキルアップセミナー

## 2014年度「第1回包装研究会」を開催

関東支部副支部長 道明 誠 (23期)

2014年7月7日18:30から、(株)文昌堂10F貸会議室において、2014年度 第1回包装研究会を開催し、20名の会員が参加しました。

テーマは、「潜在ニーズの抽出・勘と経験の見える化「行動観察」の解説」です。講師は、大阪ガス行動観察研究所(株) マーケティングソリューション推進部部长 越野孝史氏をお招きし、「行動観察」の生まれた背景、その特徴と優位性、観察の実際、商品開発事例による活用について、詳細に分かりやすく解説いただきました。

日本経済は、「作れば売れる」生産志向の時代から、「販売努力をしないと製品は売れない」販売志向の時代に移り、バブル発生以降は「顧客ニーズを創造・開拓」する顧客志向の時代へと変化してきました。ユーザーのモノの「使われ方」を把握することが製品開発や販売において非常に重要な要素となり、「現場」の観察という手法が注目されてきています。「行動観察」は、「目からうろこの改善」というよりは「積み重ねの改善」といわ

れているそうです。地道な観察、リサーチにより多くのビジネスシーンで効果を挙げているとのこと。また最近では教育現場にも行動観察の考え方が注目され、活用の範囲を広げているとのことのお話でした。

出席した会員の皆様は講演を熱心に聴講されました。また講演後は聴講者から多くの質問が出され、講師と活発な意見交換をすることができました。



第1回包装研究会



## ● 編集後記 ●

第48回定時総会が無事終了いたしました。今年の総会では、例年の議案に加えて、「50周年記念事業に関する件」が提案され承認されました。一番進んでいる事業は「記念キャラクター」で、すでに皆さまからたくさんの素晴らしい案が提案されました。ippニュース117号が皆さまのお手許に届くころには皆さまからの人気投票が終わっている頃だと思います。キャラクター作成に続き、記念誌発行、記念セミナー、記念パーティなどの事業が進められる予定です。会員の力を合せて50周年記念事業を成功させたいものです。今年「TOKYO PACK」の年です。例年通り、IPPのブース

も設けられますので、ぜひ皆さまお立ち寄りいただき、会員同士の交流を計りましょう。

さて、今年の包装管理士講座も終盤に入り、10月には新しい第49期包装管理士が誕生する予定です。皆さまの周りの新包装管理士がひとりでも多く包装管理士会に入会していただけますように、皆さまからの勧誘をぜひ、よろしくお願ひいたします。

荒井 拓哉 (12期)

### 日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: [ipp@pk9.so-net.ne.jp](mailto:ipp@pk9.so-net.ne.jp)  
http://www.ippj.net/

■本部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■北海道支部	〒060-0004	札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内	☎ : 011-241-8591 fax : 011-241-3898
■東北支部	〒021-0893	岩手県一関市地主町3-35 株式会社 東北ウエノ内	☎ : 0191-21-4531 fax : 0191-21-5381
■関東支部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■中部支部	〒450-0003	名古屋市中村区名駅南4-1-2-17 日通ビル2F 日本包装技術協会内	☎ : 052-563-7110 fax : 052-563-7123
■関西支部	〒530-6691	大阪市北区中之島6丁目2-27 中之島センタービル28F 日本包装技術協会内	☎ : 06-6444-6479 fax : 06-6444-6450
■西日本支部	〒800-0233	福岡県北九州市小倉南区朽網西1丁目6番3号 ワイルド化成株式会社内	☎ : 093-474-1211 fax : 093-474-1113

----- Copy & FAX 用切取線 -----

#### 日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 fax : 03-3543-8970 ☎ : 03-3543-9250

フリガナ						
氏名	会員番号	番	平成	年	月	日届
会社	社名					
	所属					
	住所 〒					
	TEL	FAX				
	E-mail					
自宅	住所 〒					
	TEL	FAX				
	E-mail					